

個別テーマについて

今回の調査では、個別テーマとして下記のテーマについて質問しています。

食の安全・安心

観光振興

地球温暖化対策

4. 食の安全・安心（個別テーマ）

問4 - 1 あなたは、食品の安全性について、普段どう感じていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（ は1つだけ）

食品の安全性について、普段どう感じているかを質問したところ、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」を合計した肯定的回答の割合が 52.1%となっており、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」を合計した否定的回答の割合（44.5%）よりやや高くなっている。

【性別】

男性は肯定的回答の割合が 59.2%で、否定的回答の割合（37.6%）より高くなっている。女性は否定的回答の割合が 51.1%で、肯定的回答の割合（45.7%）より高くなっている。

【年代別】

50歳代を除くすべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、20歳代は肯定的回答の割合が 64.2%で、そのうち「不安は感じていない」が 25.7%と最も高くなっている。

さらに、性・年代別で見ると、50歳代と60歳代の女性の否定的回答の割合がそれぞれ 59.7%、55.3%と高くなっている。また、20歳代の男性は「不安は感じていない」が 33.9%と最も高くなっている。

【主な職業別】

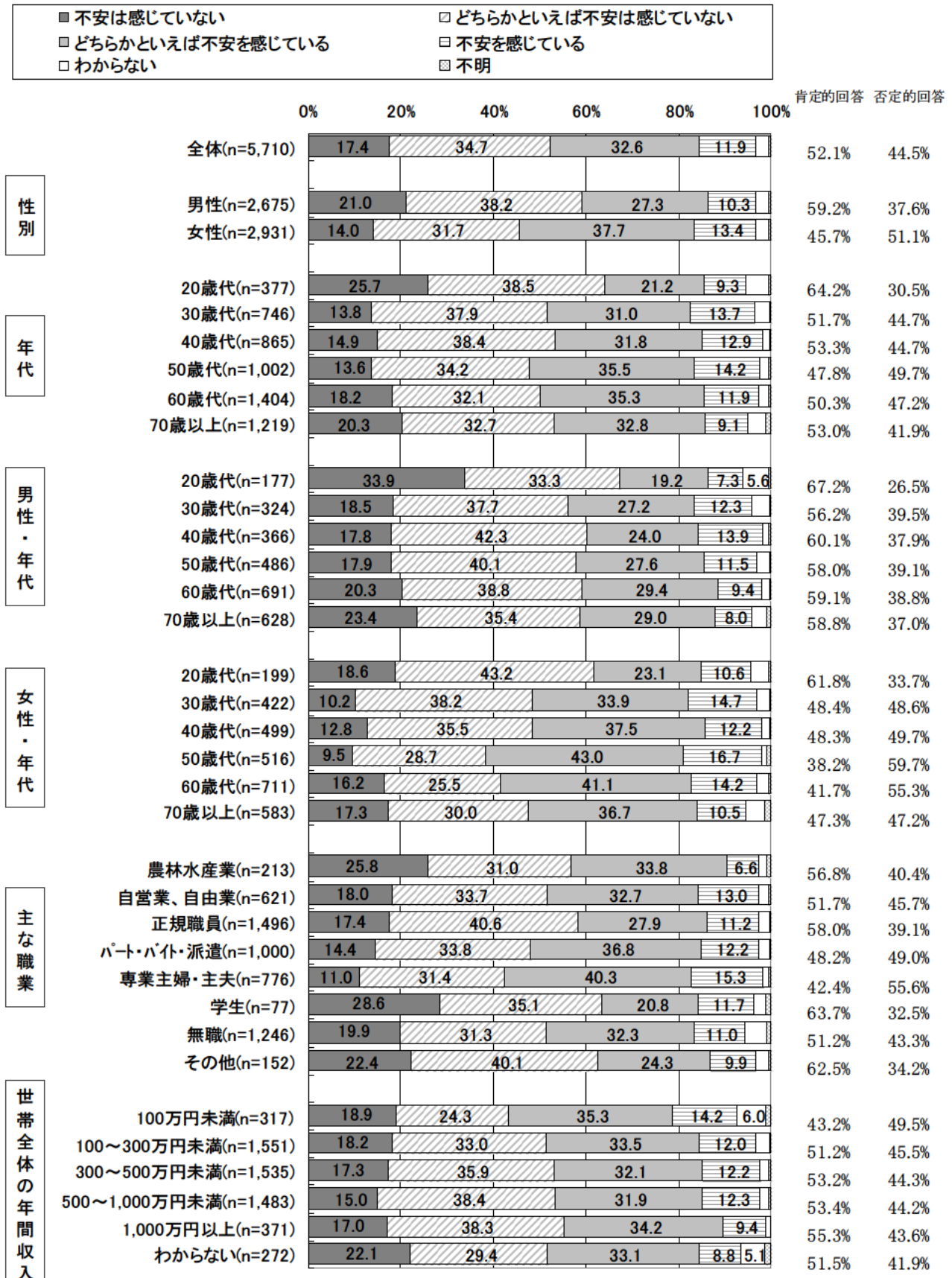
パート・アルバイト・派遣社員、専業主婦・主夫では否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高くなっている。農林水産業、自営業・自由業、正規職員、無職は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、農林水産業は「不安は感じていない」が 25.8%と高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額が 100万円以上の層は肯定的回答の割合が否定的回答より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 43.2%に対し、1,000万円以上は 55.3%となっている。

※下の図表 3-4-1 に記載の肯定的回答は、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」の割合を合計したものである。

図表 3-4-1 食品の安全性について



問4-2 【問4-1で、「3どちらかといえば不安を感じている」または「4不安を感じている」と答えた方にお聞きします】

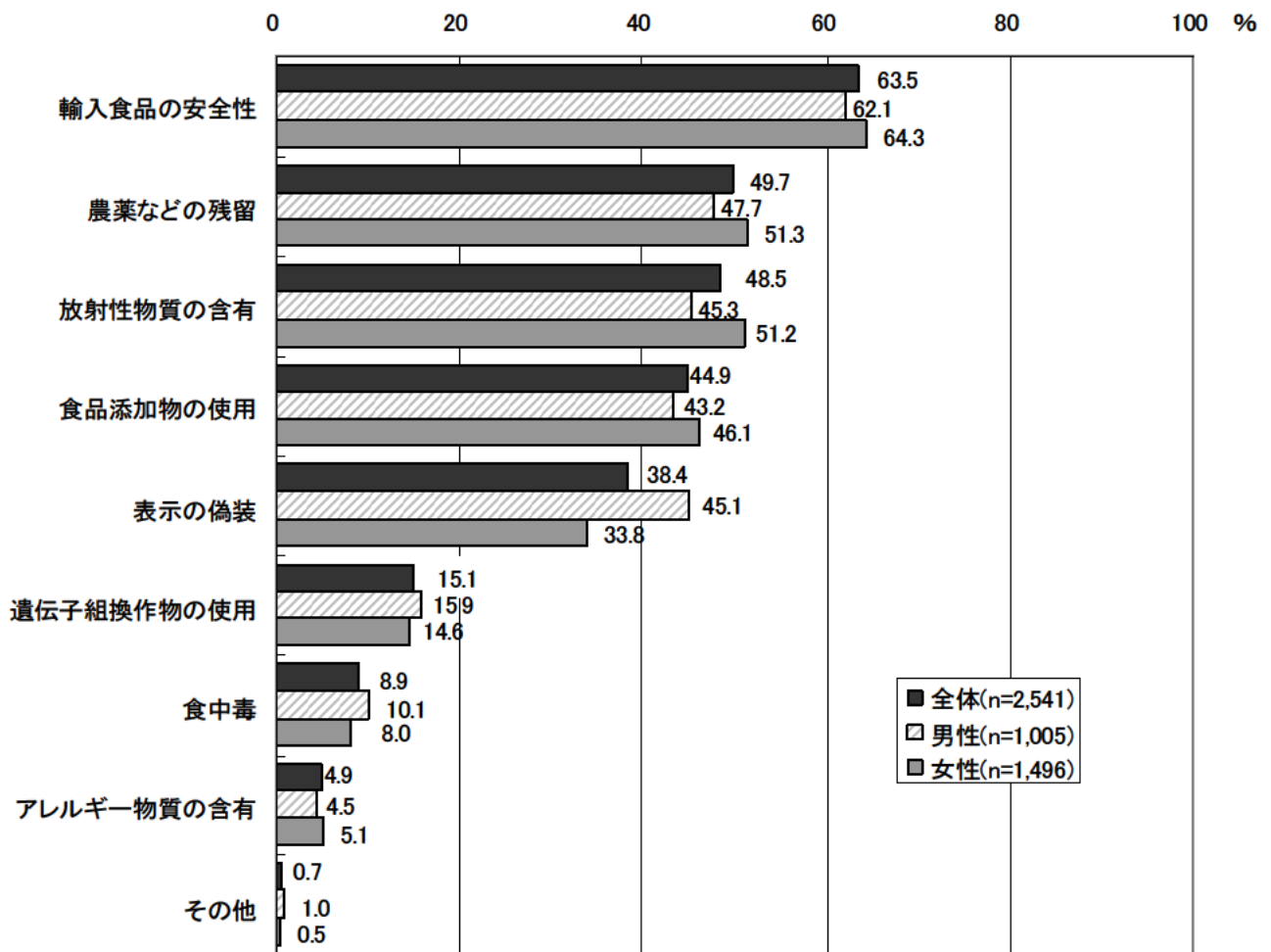
あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

食品の安全性について感じる不安の内容は、「輸入食品の安全性」が63.5%と最も高く、次いで「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」（49.7%）、「放射性物質の含有」（48.5%）、「食品添加物の使用」（44.9%）などとなっている。

【性別】

男女とも「輸入食品の安全性」が最も高く、男性は62.1%、女性は64.3%となっている。次いで「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」、「放射性物質の含有」となっている。男性は「表示の偽装（消費期限、原産地など）」が45.1%と女性（33.8%）より11.3ポイント高くなっている。

図表 3-4-2 食品の安全性について感じる不安〔複数回答〕(性別)



【年代別】

30歳代を除くすべての年代で「輸入食品の安全性」が6割以上と最も高く、30歳代は「放射性物質の含有」が64.6%で最も高くなっている。「放射性物質の含有」は、20歳代、40歳代がそれぞれ57.4%、58.7%となっており、若い世代で高くなっている。「食品添加物の使用」は20歳代の32.2%に対し、70歳以上は53.0%となっており、年代が上がるほど高くなっている。「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」についても同様の傾向がみられ、50歳代以上は5割以上となっている。

さらに、性・年代別でみると、20歳代から40歳代の女性では「放射線物質の含有」が6割以上と高くなっている。「表示の偽装（消費期限、原産地など）」について、女性はすべての年代で3割台であるのに対し、男性は40歳代が53.2%、50歳代が49.5%と高くなっている。

図表3-4-3 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(年代別上位6項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	輸入食品の安全性 60.0	放射性物質の含有 57.4	表示の偽装 40.0	農薬などの残留 38.3	食品添加物の使用 32.2	食中毒 14.8
30歳代	放射性物質の含有 64.6	輸入食品の安全性 54.7	表示の偽装 41.4	農薬などの残留 40.8	食品添加物の使用 34.5	食中毒 12.6
40歳代	輸入食品の安全性 64.3	放射性物質の含有 58.7	農薬などの残留 46.8	食品添加物の使用 表示の偽装 40.6	遺伝子組換え作物の使用 12.1	
50歳代	輸入食品の安全性 63.7	農薬などの残留 51.8	放射性物質の含有 48.2	食品添加物の使用 45.0	表示の偽装 40.6	遺伝子組換え作物の使用 16.3
60歳代	輸入食品の安全性 67.1	農薬などの残留 54.7	食品添加物の使用 48.5	放射性物質の含有 41.1	表示の偽装 35.2	遺伝子組換え作物の使用 18.0
70歳以上	輸入食品の安全性 64.2	食品添加物の使用 53.0	農薬などの残留 52.3	放射性物質の含有 39.5	表示の偽装 36.0	遺伝子組換え作物の使用 16.6

図表3-4-4 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(男性・年代別上位6項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	輸入食品の安全性 59.6	放射性物質の含有 53.2	表示の偽装 48.9	農薬などの残留 36.2	食品添加物の使用 31.9	食中毒 14.9
30歳代	放射性物質の含有 58.6	輸入食品の安全性 56.3	表示の偽装 47.7	農薬などの残留 32.8	食品添加物の使用 30.5	食中毒 15.6
40歳代	輸入食品の安全性 59.0	表示の偽装 53.2	放射性物質の含有 50.4	農薬などの残留 46.0	食品添加物の使用 41.0	遺伝子組換え作物の使用 12.2
50歳代	輸入食品の安全性 66.8	農薬などの残留 50.0	表示の偽装 49.5	放射性物質の含有 44.2	食品添加物の使用 38.9	遺伝子組換え作物の使用 15.8
60歳代	輸入食品の安全性 64.2	農薬などの残留 53.7	食品添加物の使用 49.3	放射性物質の含有 39.2	表示の偽装 38.8	遺伝子組換え作物の使用 18.7
70歳以上	輸入食品の安全性 61.2	農薬などの残留 食品添加物の使用 50.0	表示の偽装 41.8	放射性物質の含有 41.4	遺伝子組換え作物の使用 18.1	

図表 3-4-5 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(女性・年代別上位6項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	放射性物質の含有 61.2	輸入食品の安全性 59.7	農薬などの残留 38.8	表示の偽装 34.3	食品添加物の使用 32.8	食中毒 14.9
30歳代	放射性物質の含有 68.3	輸入食品の安全性 53.7	農薬などの残留 45.9	表示の偽装 37.6	食品添加物の使用 37.1	食中毒 10.7
40歳代	輸入食品の安全性 67.3	放射性物質の含有 63.3	農薬などの残留 47.2	食品添加物の使用 40.3	表示の偽装 33.5	遺伝子組換え作物の使用 12.1
50歳代	輸入食品の安全性 61.7	農薬などの残留 52.9	放射性物質の含有 50.6	食品添加物の使用 48.7	表示の偽装 35.1	遺伝子組換え作物の使用 16.6
60歳代	輸入食品の安全性 69.2	農薬などの残留 55.5	食品添加物の使用 48.1	放射性物質の含有 42.5	表示の偽装 32.8	遺伝子組換え作物の使用 17.6
70歳以上	輸入食品の安全性 66.5	食品添加物の使用 55.6	農薬などの残留 54.2	放射性物質の含有 38.2	表示の偽装 30.9	遺伝子組換え作物の使用 15.6

【主な職業別】

すべての職業で「輸入食品の安全性」が6割以上で最も高く、特に農林水産業では、75.6%と高くなっている。

図表 3-4-6 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(主な職業別上位6項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位	6位
農林水産業	輸入食品の安全性 75.6	食品添加物の使用 46.5	農薬などの残留 45.3	表示の偽装 41.9	放射性物質の含有 37.2	遺伝子組換え作物の使用 18.6
自営業・自由業	輸入食品の安全性 63.0	農薬などの残留 48.9	食品添加物の使用 48.2	放射性物質の含有 43.7	表示の偽装 35.6	遺伝子組換え作物の使用 19.0
正規職員	輸入食品の安全性 61.8	放射性物質の含有 50.2	農薬などの残留 48.3	表示の偽装 43.2	食品添加物の使用 41.3	遺伝子組換え作物の使用 12.6
パート・バイト・派遣	輸入食品の安全性 63.5	放射性物質の含有 53.1	農薬などの残留 48.8	食品添加物の使用 39.6	表示の偽装 37.3	遺伝子組換え作物の使用 15.9
専業主婦・主夫	輸入食品の安全性 63.2	農薬などの残留 53.9	放射性物質の含有 53.0	食品添加物の使用 48.8	表示の偽装 32.6	遺伝子組換え作物の使用 15.3
学生	輸入食品の安全性 60.0	放射性物質の含有 52.0	表示の偽装 48.0	農薬などの残留 44.0	食品添加物の使用 28.0	食中毒 16.0
無職	輸入食品の安全性 65.2	食品添加物の使用 50.4	農薬などの残留 50.2	放射性物質の含有 44.6	表示の偽装 39.1	遺伝子組換え作物の使用 15.2
その他	農薬などの残留 57.7	輸入食品の安全性 51.9	放射性物質の含有 46.2	食品添加物の使用 40.4	表示の偽装 36.5	遺伝子組換え作物の使用 13.5

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「輸入食品の安全性」が6割以上と最も高くなっている。

図表3-4-7 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(世帯全体の年間収入別上位6項目) (%)

世帯全体の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位	6位
100万円未満	輸入食品の安全性 61.1	放射性物質の含有 48.4	農薬などの残留 47.1	食品添加物の使用 40.8	表示の偽装 36.9	遺伝子組換え作物の使用 13.4
100～300万円未満	輸入食品の安全性 65.0	農薬などの残留 50.8	食品添加物の使用 46.7	放射性物質の含有 44.7	表示の偽装 39.1	遺伝子組換え作物の使用 16.3
300～500万円未満	輸入食品の安全性 63.8	農薬などの残留 49.9	放射性物質の含有 48.5	食品添加物の使用 46.3	表示の偽装 36.2	遺伝子組換え作物の使用 15.9
500～1,000万円未満	輸入食品の安全性 64.7	放射性物質の含有 52.8	農薬などの残留 48.7	食品添加物の使用 43.4	表示の偽装 38.9	遺伝子組換え作物の使用 14.5
1,000万円以上	輸入食品の安全性 63.6	農薬などの残留 53.1	食品添加物の使用 表示の偽装 47.5		放射性物質の含有 42.6	遺伝子組換え作物の使用 12.3
わからない	放射性物質の含有 56.1	農薬などの残留 52.6	輸入食品の安全性 50.0	食品添加物の使用 40.4	表示の偽装 35.1	食中毒 17.5

問4-3 あなたが食品の安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(〇は3つまで)

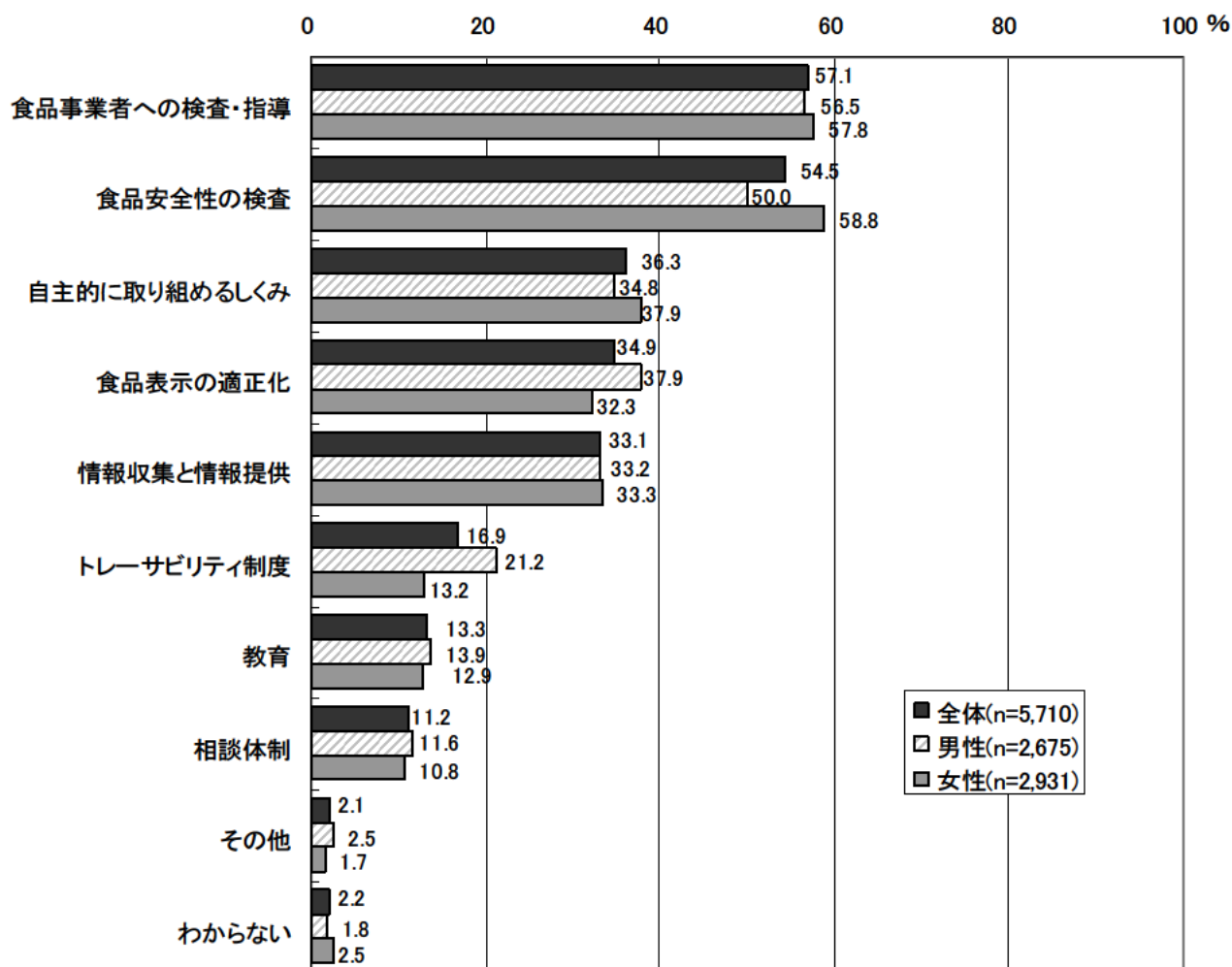
食品の安心のために行政に期待する取組については、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が57.1%と最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(54.5%)、「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ(みえの安心食材表示制度など)を推進する」(36.3%)などとなっている。

【性別】

男性は「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」(56.5%)が最も高くなっている。女性は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(58.8%)が最も高く、男性(50.0%)より8.8ポイント高くなっている。

「食品表示の適正化を推進する」、「トレーサビリティ制度(生産・流通の履歴を追跡できるしくみ)を推進する」は男性が女性よりもやや高くなっている。

図表 3-4-8 食品の安心のために行政に期待する取組〔複数回答〕(性別)



【年代別】

50歳代は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が、それ以外の年代は「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高くなっている。20歳代と30歳代は「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ（みえの安心食材表示制度など）を推進する」が2割台となっているが、50歳代以上では4割程度となっている。

さらに、性・年代別でみると、男性はすべての年代で「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高く、女性も20歳代から40歳代で最も高くなっている。50歳代から60歳代の女性は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が6割以上と最も高くなっているが、20歳代から50歳代の男性は4割台となっている。

図表3-4-9 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(年代別上位7項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 60.7	食品安全性の検査 51.2	情報収集と情報提供 38.2	食品表示の適正化 32.1	自主的に取り組めるしくみ 25.7	トレーサビリティ制度 17.5	教育 16.4
30歳代	食品事業者への検査・指導 58.0	食品安全性の検査 51.6	食品表示の適正化 36.6	情報収集と情報提供 32.6	自主的に取り組めるしくみ 29.6	トレーサビリティ制度 21.6	教育 14.1
40歳代	食品事業者への検査・指導 57.1	食品安全性の検査 54.5	食品表示の適正化 38.3	情報収集と情報提供 33.2	自主的に取り組めるしくみ 32.9	トレーサビリティ制度 21.5	教育 12.4
50歳代	食品安全性の検査 55.8	食品事業者への検査・指導 53.8	自主的に取り組めるしくみ 40.4	食品表示の適正化 35.0	情報収集と情報提供 33.7	トレーサビリティ制度 20.7	教育 11.8
60歳代	食品事業者への検査・指導 57.3	食品安全性の検査 56.5	自主的に取り組めるしくみ 40.4	情報収集と情報提供 34.0	食品表示の適正化 33.0	トレーサビリティ制度 16.3	教育 12.9
70歳以上	食品事業者への検査・指導 58.3	食品安全性の検査 54.6	自主的に取り組めるしくみ 38.4	食品表示の適正化 34.5	情報収集と情報提供 30.8	教育 14.6	相談体制 13.6

図表3-4-10 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(男性・年代別上位7項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 57.6	食品安全性の検査 48.6	情報収集と情報提供 36.2	食品表示の適正化 35.0	自主的に取り組めるしくみ 28.2	トレーサビリティ制度 20.9	教育 16.4
30歳代	食品事業者への検査・指導 53.4	食品安全性の検査 42.0	食品表示の適正化 38.9	情報収集と情報提供 32.4	自主的に取り組めるしくみ 27.8	トレーサビリティ制度 26.5	教育 18.2
40歳代	食品事業者への検査・指導 52.7	食品安全性の検査 48.4	食品表示の適正化 42.3	情報収集と情報提供 33.6	自主的に取り組めるしくみ 31.4	トレーサビリティ制度 28.1	教育 11.7
50歳代	食品事業者への検査・指導 53.9	食品安全性の検査 48.6	食品表示の適正化 39.3	自主的に取り組めるしくみ 35.4	情報収集と情報提供 34.4	トレーサビリティ制度 24.9	教育 11.9
60歳代	食品事業者への検査・指導 57.3	食品安全性の検査 52.7	自主的に取り組めるしくみ 37.3	食品表示の適正化 36.3	情報収集と情報提供 32.4	トレーサビリティ制度 22.1	教育 14.0
70歳以上	食品事業者への検査・指導 61.3	食品安全性の検査 53.7	自主的に取り組めるしくみ 38.9	食品表示の適正化 36.1	情報収集と情報提供 32.6	教育 13.9	相談体制 13.2

図表3-4-11 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(女性・年代別上位7項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 63.3	食品安全性の検査 53.3	情報収集と情報提供 40.2	食品表示の適正化 29.6	自主的に取り組めるしくみ 23.6	教育 16.6	トレーサビリティ制度 14.1
30歳代	食品事業者への検査・指導 61.6	食品安全性の検査 59.0	食品表示の適正化 34.8	情報収集と情報提供 32.7	自主的に取り組めるしくみ 31.0	トレーサビリティ制度 17.8	相談体制 11.1
40歳代	食品事業者への検査・指導 60.3	食品安全性の検査 58.9	食品表示の適正化 35.3	自主的に取り組めるしくみ 34.1	情報収集と情報提供 32.9	トレーサビリティ制度 16.6	教育 12.8
50歳代	食品安全性の検査 62.6	食品事業者への検査・指導 53.7	自主的に取り組めるしくみ 45.2	情報収集と情報提供 33.1	食品表示の適正化 31.0	トレーサビリティ制度 16.7	教育 11.6
60歳代	食品安全性の検査 60.1	食品事業者への検査・指導 57.2	自主的に取り組めるしくみ 43.3	情報収集と情報提供 35.7	食品表示の適正化 29.8	相談体制 12.0	教育 11.8
70歳以上	食品安全性の検査 55.6	食品事業者への検査・指導 55.4	自主的に取り組めるしくみ 38.1	食品表示の適正化 33.1	情報収集と情報提供 28.8	教育 15.4	相談体制 14.1

【主な職業別】

ほぼすべての職業で、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」、「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」の順に高くなっている。

図表3-4-12 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(主な職業別上位7項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
農林水産業	食品事業者への検査・指導 53.5	食品安全性の検査 44.6	自主的に取り組めるしくみ 42.3	食品表示の適正化 35.2	情報収集と情報提供 33.3	教育 20.2	トレーサビリティ制度 14.1
自営業・自由業	食品安全性の検査 56.8	食品事業者への検査・指導 53.6	自主的に取り組めるしくみ 36.9	情報収集と情報提供 32.9	食品表示の適正化 32.2	トレーサビリティ制度 16.3	相談体制 13.2
正規職員	食品事業者への検査・指導 55.5	食品安全性の検査 50.2	食品表示の適正化 38.7	情報収集と情報提供 34.4	自主的に取り組めるしくみ 32.8	トレーサビリティ制度 24.1	教育 13.8
パート・アルバイト・派遣	食品事業者への検査・指導 59.6	食品安全性の検査 59.3	自主的に取り組めるしくみ 36.4	情報収集と情報提供 35.0	食品表示の適正化 34.0	トレーサビリティ制度 14.9	教育 12.1
専業主婦・主夫	食品事業者への検査・指導 60.6	食品安全性の検査 59.8	自主的に取り組めるしくみ 43.3	情報収集と情報提供 37.0	食品表示の適正化 31.1	トレーサビリティ制度 12.6	相談体制 11.1
学生	食品安全性の検査 57.1	食品事業者への検査・指導 53.2	情報収集と情報提供 44.2	食品表示の適正化 自主的に取り組めるしくみ 33.8	教育 22.1	トレーサビリティ制度 15.6	
無職	食品事業者への検査・指導 58.5	食品安全性の検査 54.4	自主的に取り組めるしくみ 36.0	食品表示の適正化 35.7	情報収集と情報提供 29.2	トレーサビリティ制度 13.6	教育 13.5
その他	食品事業者への検査・指導 55.9	食品安全性の検査 51.3	食品表示の適正化 31.6	自主的に取り組めるしくみ 29.6	情報収集と情報提供 25.0	トレーサビリティ制度 22.4	教育 相談体制 14.5

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」となっている。

図表 3-4-13 食品の安心のために行政に期待する取組[複数回答](世帯全体の年間収入別上位7項目)

(%)

世帯全体の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
100万円未満	食品事業者への検査・指導 57.4	食品安全性の検査 51.7	自主的に取り組めるしくみ 32.5	情報収集と情報提供 32.2	食品表示の適正化 28.7	相談体制 16.1	教育 13.6
100～300万円未満	食品事業者への検査・指導 56.7	食品安全性の検査 55.5	自主的に取り組めるしくみ 38.4	食品表示の適正化 35.6	情報収集と情報提供 33.1	トレーサビリティ制度 13.6	教育 12.8
300～500万円未満	食品事業者への検査・指導 58.7	食品安全性の検査 55.1	自主的に取り組めるしくみ 36.1	食品表示の適正化 34.6	情報収集と情報提供 34.3	トレーサビリティ制度 16.4	教育 14.9
500～1,000万円未満	食品事業者への検査・指導 57.8	食品安全性の検査 55.6	食品表示の適正化 36.5	自主的に取り組めるしくみ 36.0	情報収集と情報提供 34.1	トレーサビリティ制度 21.6	教育 12.6
1,000万円以上	食品事業者への検査・指導 57.7	食品安全性の検査 54.7	自主的に取り組めるしくみ 38.3	食品表示の適正化 37.2	情報収集と情報提供 31.0	トレーサビリティ制度 26.4	教育 11.6
わからない	食品事業者への検査・指導 51.1	食品安全性の検査 48.5	食品表示の適正化 自主的に取り組めるしくみ 31.6	情報収集と情報提供 29.4	教育 13.6	トレーサビリティ制度 12.9	

【問4-1の回答別】

食品の安心のために行政に期待する取組について、問4-1において「不安は感じていない」或いは「どちらかといえば不安は感じていない」と回答した人と、「不安を感じている」或いは「どちらかといえば不安を感じている」と回答した人を比較してみると、否定的に回答した人は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が64.7%と最も高く、肯定的に回答した人(47.1%)より17.6ポイント高くなっており、特に大きな差がみられる。

図表 3-4-14 食品の安心のために行政に期待する取組[複数回答](問4-1の回答別)

